



## まちの話題

話題・情報は企画課へお寄せください。

### 大阪・関西万博 1市6町「麒麟のまち」を発信

関西パビリオンに隣接して設置された半屋外の多目的エリアで「とつとりフェス」お祭り緑日」が7月15日から21日まで開催され、「麒麟のまち」圏域1市6町がタッグを組み、鳥取の祭り、食、観光の魅力を中心としたPRイベントを行いました。

期間中は、各市町のグッズやパンフレットの配布、缶バッジなどが当たるガチャには長蛇の列ができました。また、やずびよんが登場すると「かわいい」と一緒に撮影をする来場者でこちらも長蛇の列ができるなど、万博でもやずびよんの人気は健在でした。

夏休みを迎え、ますます盛り上がりを見せる大阪・関西万博の熱気を実感しました。



7月19日には、吉田町長とやずびよんが鳥取しゃんしゃん鈴の音大使と一緒に登場。「八頭町においてやずびよんがPRしました。」と声高らかにPRしました。

### 「第75回社会を明るくする運動二町合同研究大会」が開催されました

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の力について考える「第75回社会を明るくする運動二町合同研究大会」が、7月25日(金)に若桜町公民館で開催されました。

大会では、八頭中学校と若桜学園の生徒による意見発表や鳥取少年鑑別支所長の小磯篤士さんによる講演が行われました。

参加された方々は真剣な表情で耳を傾け、少年非行の現状から見た地域支援のあり方や、再出発を支える地域の役割について理解を深める機会となりました。



講演を行う鳥取少年鑑別支所長 小磯篤士さん

### 地域医療の新たな拠点に「こおげ駅前クリニック」が開院

町内で相次いでいた民間診療所の閉院により、かかりつけ医の確保が課題となっていたなか、町と県の支援を受けた新たな民間診療所「こおげ駅前クリニック」が開院し、開院式が行われました。

同クリニックは、内科と胃腸内科を診療科目とし、内視鏡やCTなどの医療設備を備えています。

院長の岡田智之さんは「地域のみなさんに安心して利用していただけるクリニックを目指したい」と今後の展望を語りました。



診察をするこおげ駅前クリニック岡田智之院長

## 中私都地区まちづくり委員会設立10周年を祝う

中私都地区まちづくり委員会の設立10周年を記念する行事が、7月30日(水)に中私都地区福祉施設で開催されました。

記念式典では、90歳以上の参加者をたたえる「ぶらっとエイジレス賞」の表彰が行われたほか、これまで委員会運営に尽力された功労者へ感謝状が贈られました。

続くステージ発表では、早淵流刺詩舞道、足達裕吉一行、ミュージック・ハーブ華鈴の皆さんによる芸能披露が行われ、会場は祝賀ムードに包まれました。

丸山委員長は「猛暑の中、たくさんの方にご参加いただきうれしい。今後皆さんに楽しく通っていただけたらよい、委員会活動をさらに充実させていきたい」と話し、節目を機にさらなる意欲を見せていました。



10周年を祝って記念撮影を行った参加者

## 音楽の力で笑顔に

### 東郡家地区まちづくり委員会

### 委員会で音楽コンサート開催

東郡家地区まちづくり委員会は、毎週実施している「たからカフェ」の特別企画として、地域の人も一緒に楽しめる音楽コンサートを中央公民館で開催しました。

会場では、鳥取環境大学アカペラサークルによる息の合ったエネルギーシユな歌声や、鳥取県警察音楽隊による迫力ある演奏が披露され、参加者たちは心地よい音楽に耳を傾けていました。

山根委員長は「演奏を聴いている参加者の顔がいきいきとしていて、うれしそうでよかった」と話し、参加者からは「若い人たちの歌声が爽やかでとてもよかった」「感動した」などの声が聞かれました。



演奏披露する鳥取県警察音楽隊

## 八頭高ホッケー部、地元開催の総体で躍動

「令和7年度全国高等学校総合体育大会」向け未来の扉 中国総体2025」のホッケー競技大会が、8月2日(土)から6日(水)にかけて、県立八頭高等学校ホッケー場とヤマタスポーツパークを会場に開催されました。

大会前日の8月1日(金)には、とりぎん文化会館で開催式が行われ、八頭高男子ホッケー部主将 中口選手と女子ホッケー部主将 大石選手が力強く選手宣誓を行い、これまで支えてくれた人たちの感謝の気持ちを胸に、全力で戦い抜くことを誓いました。

2日から始まった競技では、地元開催という大きな舞台の中、八頭高ホッケー部の選手たちは懸命に力を尽くしました。



選手宣誓をする大石選手(左)と中口選手(右)

女子ホッケー部は3回戦まで進出するも、惜しくも敗退。大石主将は、「地元での開催はとてもありがたく、感謝の気持ちを持ってプレーできた。次の国スポ予選では、もっと勝ちにこだわりたい」と語りました。

男子ホッケー部は快進撃を見せ、準決勝で惜敗したものの、見事全国3位入賞を果たしました。中口主将は、「これまで支えてくれた皆さんに優勝という形で恩返しできなかったのは悔しいが、限られた練習の中でここまで勝ち上がったことは大きな自信になった。次の国スポ予選では、しっかりと結果を出せるよう頑張りたい」とさらなる飛躍を誓いました。

地元での全国大会という貴重な経験を糧に、八頭高ホッケー部の今後のさらなる活躍が期待されます。



3位入賞を果たした八頭高男子ホッケー部員

## 農業の未来を見据えて長野県で視察研修を実施

農業委員および農地利用最適化推進委員の資質向上と今後の業務に役立てることを目的に、7月1日(火)から3日(木)にかけて、農業委員会の視察研修が長野県で行われました。

視察先のひとつ、長野市農業公社では、中山間地域の活性化を目指したブランド「ながのいのち」について説明を受けました。このブランドは、単なる農産物のブランドにとどまらず、地域そのものの魅力を発信する取り組みで、地産地消のリーダー育成や、常設の販売拠点開設、商品の品質認定制度の導入など多面的に活動しています。一方で、ブランドマーク付き商品の購買行動には課題もあるとの現状も共有されました。



長野市農業公社職員の説明を聴く参加者

続いて訪れた株式会社トップリバーでは、「農業を通じて自分とすべての人を幸せにする」という理念のもと、農業経営と人材育成の両輪での取り組みについて学びました。従来の「感覚で学ぶ」スタイルから一歩進め、熟練農業者の知識や経験を言語化・マニュアル化して共有可能な形にするなど、組織的・効率的な人材育成を実践している様子が紹介されました。

町では高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加が大きな課題となっており、研修に参加した委員は「起業独立を目指す新規就農者の育成について、とてもいい勉強になった」「今回の研修内容を委員間で情報共有しながら、日々の活動に生かしていきたい」と話していました。



株式会社トップリバーで説明を聞く参加者

## ★キラリ★ やずっとく

まちで輝く人や、魅力あふれる場所・ものを紹介するコーナーです。2カ月に1回掲載します。知るちよと得する「やずっとく」八頭町の素敵な魅力、あなたも「やずっとく」しませんか？

子どもたちと、自然と、ともに。

地域おこし協力隊 宮崎靖大さん

「僕、毎日川で遊んでるよー」

大学時代、ボランティア活動で出会った八頭町の子どもの一語が、宮崎靖大(やすひろ)さんの心に響きました。

大阪府岸和田市出身の宮崎さんにとって、子どもが自然の中で遊ぶ日常は、とても新鮮で魅力的に映りました。やがて、上私都地区まちづくり委員会と公立鳥取環境大学の連携事業に参加。大学卒業後は八頭町で集落支援員や児童クラブの支援員として働いた後、自身の可能性を広げようとワーキングホリデーで海外へ。異国での経験も充実していたそうですが、



宮崎靖大さん

「やっぱり八頭町が好き」との思いが募り、帰国後は地域おこし協力隊として再び町に戻ってきました。

この夏、宮崎さんがはじめたのが、子どもたちの体験塾「ナツキチ」。参加を募ると、10人の子どもたちが集まり、川遊びやフッキングなど自然体験や社会体験などをして過ごしています。

「自分にできることは、子どもたちと関わること」と語る宮崎さん。今後は県内外の子どもたちも対象にし、町内の子どもとの交流の場として広げていきたいと考えています。

また、鶏を飼って、スローライフを満喫したいと笑顔で語る宮崎さん。

自然豊かな八頭町を舞台に、やりたいことをまっすぐに追いかけて、子どもたちの未来につながる活動を実践しています。

その柔軟な発想と行動力で、これからの地域に新たな風を吹き込んでくれそうです。



ナツキチで川遊びをする子どもたち  
(写真:宮崎さん提供)



## 1,800台が隼に集結 第15回隼駅まつり開催

第15回隼駅まつりが、荒天にもめげず、8月10日(日)、隼駅と船岡竹林公園で開催されました。前日のイベントも含め、全国各地から約1,800台のバイクと延べ2,000人の来場者が訪れ、熱気あふれるまつりとなりました。

開会式では、「みなさんおかえりなさい」という隼駅を守る会石谷優会長のあいさつで幕開け。再び顔を合わせたライダーたちの笑顔があふれ、雨天を吹き飛ばしました。

竹林公園内の展示ブースでは、ライダーに人気のスズキ㈱による限定グッズ販売ブースに長蛇の列ができ、2025年新作のTシャツなどを手にした来場者が賑わいました。ほかにも隼バイクやバイク用パーツの展示、隼グッズ販売など、ライダー心をくすぐる出店が並びました。

隼駅では、駅舎を背景に愛車と記念撮影を楽しむライダーが列をなす光景も。ちょうどそのタイミングで、スズキ㈱の鈴木俊宏社長、ゲストライダーが隼を訪れ、到着した隼ラッピン

グ列車に手を振って乗客を見送る一幕も見られました。

竹林公園では、日本人初の世界耐久選手権チャンピオン・北川圭一さんと、元MotoGPテストライダーでプロレーサーの津田拓也さんを迎えるトークショーを開催。過去にも出演経験のある2人による軽妙なやり取りに、ライダーたちは熱心に耳を傾けていました。

また、恒例のライダー交流会では「遠くからきたもんだ賞」として、北海道釧路市や宮崎県日南市から訪れたライダーたちが表彰され、歓声が上がりました。じゃんけん大会では、北川さんと津田さんを相手に豪華景品をかけてじゃんけんをし、大いに盛り上がりました。

多くの来場者の熱気と、地域の温かなもてなしにより大盛況のうちに幕を閉じた隼駅まつり。最後はボランティアのみなさんや、スズキ社員、吉田英人町長らが「また来年も隼で会おう」と、帰路に着くライダーたちを笑顔で見送りました。